



コスタリカでマーケティング隊員として活動中!

まつもと しずか
松本 静香さん(コスタリカ、ペレス・セレドン在住、川崎市出身)

JICA 青年海外協力隊 任期:2016年7月から2年間

▲カウンターパート(同僚・右)とインターン生と



▲クッキー作りの様子



▲お米の美味しい「タマル」



▲よく見る「ナマケモノ」



▲世界一美しい鳥と言われる「ケツァール」

コスタリカという国をご存知でしょうか? 中米にある小さな国ですが、軍隊を持たない平和国家であり、世界で最も幸せに暮らせる国とも言われています。また、多様な動植物が生息し、カラフルな昆虫や蝶、きれいな鳥をたくさん見ることができる自然豊かな美しい国です。

私は、首都・サンホセから車で3時間半のペレス・セレドンという町で、青年海外協力隊のマーケティング隊員として、障害者グループの就労・自立の支援を行っています。

障害者も働いて収入を得る

多くの障害者が働くことができないコスタリカでは、基本的に「障害者=貧しい」と言われています。そ

れは、国からの経済的サポートも少ないことが要因です。「障害者が働き収入を得ることこそが、障害者の自立に繋がる」という考えのもと、私は地域にある複数の障害者グループと活動しています。

たとえば、あるグループでは、具にお米を使った地域独特の「タマル」*という伝統料理を製造・販売していますが、その売上向上のために、市場調査やチラシの作成、店への営業活動等を行っています。また、別のグループでは、「観光大国なのに適したお土産がない」という現状に注目し、地元の特産品を使った「お土産クッキー」を観光客向けに作ろうとしています。ここでは、成功事例の分析からクッキーの試作、型・箱のデザイン、出資してくれる団体探しなどを行っています。

平和で幸せな国

温暖な気候や自然に恵まれているからか、軍隊がないからなのかわかりませんが、コスタリカ人は基本的に争いを好まず、穏やかで優しい人が多いです。また、仕事の後に夜間大学や英語教室に通う人も多く、教育熱心でもあります。そして、コスタリカで最もよく聞く言葉の一つに、「プラ・ビダ

(Pura Vida)」という言葉があります。これは「元気だよ」「最高!」「OK!」などという意味で使われ、「人生楽しくこよう!」というポジティブな感情を込めて使われます。

活動の中で、思うようにいかず悩む事もありますが、この「プラ・ビダ (Pura Vida)」精神を大切にして、青年海外協力隊の任期残り1年を、楽しむ気持ちを忘れずに頑張る活動していきたいと思っています。

(文・写真: 松本 静香さん提供)

*コスタリカで「タマル」と言うと、通常はトウモロコシの粉と肉・野菜をバナナの葉で包み蒸したのですが、松本さんの働くグループではお米を使った地域独特の「タマル」を製造。葉もバナナではなく、地域で栽培される葉を使用。



コスタリカ共和国
面積: 5.1万km²
人口: 約481万人
首都: サンホセ
公用語: スペイン語

【お知らせ】



ボランティア秋募集
応募期間 9/29 ~ 11/1

青年海外協力隊、シニア海外ボランティア
合同で、説明会を予定しております。

募集説明会 9月下旬より開始

詳しくはjicaのホームページをご覧ください
<http://www.jica.go.jp/yokohama/index.html>